

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社  
(以下「ディズニー」という)  
第十四回ディズニー・チャンネル放送番組審議会  
議事録

開催日時 : 2010年04月21日(水) 17:30~19:00  
開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社  
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ  
ショナル ジャパン  
スタジオ・ディズニー会議室

在任審議委員数 : 7  
出席審議委員数 : 6  
出席審議委員氏名 : 加藤 諦三  
木下 美子  
中川 真弥  
前田 耕作  
山田 顕喜  
湯川 れい子

その他、ディズニ : アイリーン・ハンベルガー  
ーからの出席者 (プログラミング・シニアマネージャー／編成部)  
待鳥 雅之  
(コンプライアンス・スーパーバイザー／編成部)

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について
  - 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について  
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にDVDを送付した。)
    - ・「ジャングル・ジャンクション」
    - ・「サニー with チャンス」
    - ・「パートとアーニーのだいぼうけん」
    - ・「さくらももこ劇場コジコジ」
    - ・「メジャー」

**審議の概要**

- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD番組編成について  
ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について説明が  
され、下記のとおり意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

- ディズニー・チャンネル全体としては大きな変更はない。プレイハウス・ディズニーの枠では新番組放送を開始して、ディズニー・チャンネルでは「大正野球娘」という作品を今週末から放送開始予定。女の子が夢に向かって頑張る、という内容で、仲間との友情など作品のメッセージとしてはディズニーの価値観を多く含む。
- 「さくらももこ劇場コジコジ」は何時に放送か？
- 6月から夜21:00に放送を開始する予定。
- ディズニーXDについては、3月ごろから視聴率が上昇傾向にある。
- 「かいけつゾロリ」は相変わらず好調で、「メジャー」も4月から放送を開始した。
- 実写番組については、今後どう育てていくかが課題である。これからも、「笑える」内容の番組を揃えていきたいと考えている。
  
- 先日公開されたハンナ・モンタナの映画を見た。大変な混雑で驚いた。女の子たちには大変人気があるようだった。中学生が5~6人の団体に観に来ていた。
- 小規模な展開ではあったが、公開の規模にしては成功したと認識している。
- 日本では、小学生・中学生に認知されているが、高校生以上の「消費者層」にまでは知れわたっていないので、アメリカでの人気に比べると、日本のマーケットでの彼女のスター化は苦戦しているのでは。
- 昔に比べると、観客がコスプレをしてまでディズニーリゾートに行く人は確実に増えていると思う。
- 日本は「慣れる」スピードが遅いのでは？

## 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について

ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

### 『ジャングル・ジャンクション』について：

- 舞台はジャングル。そこはタイヤを付けた動物が暮らす不思議な空間。各エピソードの随所で道路標識のようなサインが現れ、視聴者に対して、

「これは何のマークかな？」と問いかける。それらの標識を通して、意味を読み取る力や、基礎的なルールなどを学べる。また、仲間との友情やそれぞれの個性を生かして力を発揮して、みんなで協力して何かを成し遂げること、などもテーマに含まれている。

- この作品はイギリスで制作されており、現在は、週2回放送している。
- 大人でも楽しめる。キャラクターを見るだけでも面白い。
- もう少し年齢が上がれば、生活のルールなども学べるようになるのでは。教材の候補にもなる作品だ。
- それぞれに個性があってよい、という発想が根底にあるのはとても良い。
- 言葉を習得し始めるころの子どもたち向けだろうか？ 同じ言葉を繰り返す、あえて言葉をあまり多く使っていない、というところが、そういう年齢の子供たちに向いている。
- 協力して助け合う、を色々なパターンでみせることによって、子どもたちへの印象も深まる。
- 母親の関わりも重要。一緒に座って番組を見ている、という環境が大切。親子で時間を共有し、番組の視聴後にコミュニケーションを持つことで、番組の良さがより深まる。
- 小学校3年生あたりが変化の年齢。可能であれば幼稚園くらいの時期の方がよいが、ディズニーの番組であれば母子で一緒に見るケースも多い。例えば、「ダンボ」を見て泣いた子供に対して、一緒に見ている母親がそれに気づいてどのような言葉をかけるのか、また、それをどのような教訓として教えていくのか、ということが重要。中学生レベルになると考え方が大人化してちがう意見が出てくる。ディズニーの作品を幼少期から見ている子たちは純粋に育っているように思える。
- 幼児教育の入り口で、エンタテインメントでありながら、教育ツールとして使える。
- キャラクターたちの発想がユニークで、分かりやすい。

『バートとアーニーのだいぼうけん』について：

- バートとアーニーの二人が、夢の中で冒険に出かけるというお話。セサミストリートの番組には、子どもたちは社会全体の宝、新しい世界や知識の扉を開いてほしい、という思いが込められている。小さな子供を飽きさせず、エンタテインメントとしての質の高さや面白さには定評がある。キャラクターも非常に個性が豊かである。
- ディズニー・チャンネルの視聴者からは既に、「お友達とのコミュニケーションを学ぶのに良い番組」、「自分が子供のころ、セサミストリートが大好きで観ていました。バートとアーニーが主役というのは面白そう」と

いった声が上がっている。

- 長年のファンとしては、セサミストリートのキャラクターに対しては、このようにキャラクターにまた会えるのはとても嬉しい。
- ミッキーやミニーのように、キャラクターとして人の心に生きているのでは？
- 同じくセサミストリートのキャラクターの「エルモズワールド」も現在放送中。セサミストリート＝幼児に強いブランド、という認識は強いが、良く受け止められている。
- 全て粘土で出来ているのだろうか？キャラクターだけでなく、木の枝まで粘土で作られているというのは面白い。
- 二人、友だち、というのがシンプルで、また、尺が5分と短いのも良い。
- お母さんたちも見れる・見たい、ということも良い。

#### 『サニー with チャンス』について：

- サニー（デミ・ロヴァート）は、スポットライトを浴びる一流のスターを夢見る女の子。ある日、子供向けコメディ番組のプロデューサーが、サニーの面白いウェブビデオを見て、彼女を新しいメンバーとして番組（大好きで憧れていた『So Random!』）に加えることになる。サニーとしては、スターになりたいという夢がかなえられたが、そこにはすでに仲良しグループができており、彼女はその中に溶け込むのに苦労する、という設定。
- ハリウッドでスターになるという背景を、日本の子どもたちは理解できるだろうか。アメリカ的な作りをした番組だと思う。
- ある意味、奇想天外な作りで、「次に何が出てくるのだろうか？」という期待感を持って見られる。
- コント的なテンポの良さについていける。日本のコントとは少々異なるが面白い。
- 例えば、ドルフィン・ボーイ（イルカのように頭から水を噴き出す）などビジュアル的なジョークが男の子にも受けているのだろうか。
- 視聴率等、反響は良い。
- 第2シーズンも制作されているということは、それだけ人気もあるということだと思う。
- 何とも言えないハリウッドスマイルも印象的。

#### 『さくらももこ劇場コジコジ』について：

- 94年に少女漫画に掲載された作品。内容としてはメルヘンであると同時に、ナンセンスなギャグ作品。基本的には子供向けではあるが、「少々大

- 人っぽいギャグ」も含まれており、男女ともに楽しめる作品。
- 各エピソードのストーリー展開としては、毎回、特定のキャラクター（何かの行事の神様や精霊など）にフォーカスして、彼等の日常生活の様子や生き様を見せる、という作りになっている。
  - ちびまる子ちゃんであれば、世の中に対して斜め目線である、ということが分かりやすかったが、それと比較すると少々分かりづらかった。
  - キャラクターの中で、学校の先生だけが四角いのは面白い。
  - この先生には、四角い先生＋黒板＋怒り方＝本当の小学校の先生、というイメージがあり、リアル感がある。作品のテーマも、現実そのままなので、「メルヘン」ではないと感じた。
  - どのような年齢層の人たちが見るのか分からない。
  - ディズニー作品と比較して、視聴者の反応がどのように出るか興味深い。

『メジャー』について：

- 幼いころに野球選手である父を亡くした主人公の吾郎は、亡き父と同じように野球選手になり、ついにはメジャーのマウンドに立つ、という物語。NHKで2004年から放送されている作品で、この4月から第6シリーズも放送される予定。
- シリーズのテーマには、友情、努力、家族等があり、これらに加えて、主人公の吾郎が、自分自身を常に「逆境」におき、更なる進化を目指すという姿もファンを引き付けているところでもある。
- 視聴時間帯も男児の視聴者向けであろうか？固定ファンが付きそうな番組だと思う。
- シリアスな話ということで、根強い固定ファンがつく番組に育っていくのではないだろうか。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので19：00に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。